

採用試験において主流となっている「SPI(現在のバージョンはSPI3)」について、就職ガイダンス等で役立つ基本情報をお届けします。

「SPI」の種類

「SPI」の内容は、大きく**能力検査**と**性格検査**に分けられます。性格検査は共通ですが、能力検査は受検対象や測定内容によって右のようなタイプがあります。大学・短大・専門学校新卒者の採用試験においては「SPI-U」「SPI-A」が主流となっています。

テスト名	主な対象	能力検査の内容
SPI3-U	大卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-A	大卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語) ※SPI-Uの短縮版
SPI3-B	大卒採用応募者 ※基礎能力を細かく測定	基礎能力(言語的理解・論理的思考・数量的処理)
SPI3-G	キャリア採用応募者	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-H	高卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-R	事務職採用応募者 (大卒/短大卒/高卒) ※非定形的な業務を含む事務職	実務基礎能力(事務処理能力・基礎能力)
SPI3-N	事務職採用応募者 (大卒/短大卒/高卒) ※定形的な業務を行う事務職	事務能力(漢字の読み書き・計算・事務処理)
SPI3-US*	大卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語)・構造的把握力
SPI3-UE*	大卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語)・英語能力
SPI3-USE*	大卒採用応募者	基礎能力(言語・非言語)・構造的把握力・英語能力
SPI3-GE*	キャリア採用応募者	基礎能力(言語・非言語)・英語能力

*テストセンターのみでの実施

実施方法

大きく分けて**Web(パソコン)受検**と**ペーパー受検**に分けられます。

実施方法		特徴
Web (パソコン) 受検	テストセンター	リクルートの提供するテストセンターに、受検者が向かい受検する。
	インハウスCBT	採用試験を行う企業(または企業の指定する会場)で受検する。
	WEBテスト	受検者の自宅や学校のパソコンを使用して受検する。
ペーパー受検		マークシート式

検査の構成

前述のように、「SPI」は**能力検査**と**性格検査**に分けられます。

		SPI3-Uの検査時間			
		テストセンター	インハウスCBT	WEBテスト	ペーパー受検
能力検査	言語分野		約35分		70分
	非言語分野				
性格検査			約30分		約40分

再受検を繰り返すことで解答方式に慣れ、得点が伸びる傾向にあるので、**確かな手ごたえを得るまでは再受検するべし!**

今や主流 テストセンターでの受検の流れ

- ①志望企業にエントリー。
- ②志望企業から、「SPI」受検の指示メール(受検期限が示されている)が届く。
- ③受検予約サイトにアクセスし、指定された期限内で自分の都合のよい日時・会場を予約する。
- ④予約操作をした日の**27時(翌日午前3時)までに**、サイト上で性格検査を受検。**期限までに性格検査を受検完了していないと、テストセンターの予約はキャンセルされる。**
- ⑤予約した日時に、会場にて能力検査を受検。
・受検票、顔写真付き本人確認書類(学生証・運転免許証など)が必要。当日の服装は自由。
・会場には、パソコンのほか、筆記用具とメモ用紙が用意されている。
- ⑥受検終了。
・受検者へ受検結果は告知されない。

※最新の受検結果のみ、使い回す(他の企業へも提出)ことができます(受検後1年間有効)。

能力検査 短時間で確実に、ボーダーライン以上の点数を取ることが必要。

能力検査は、**言語分野**と**非言語分野**に大きく分けられます。

言語分野は、国語的分野に関する出題です。言語的理解力がどの程度備わっているかを測定します。

非言語分野は、算数・数学的、論理的分野に関する出題です。統計的な処理・分析といった業務に不可欠な、数的処理能力や論理的思考能力について測定します。

具体的な出題範囲は右表のようになりますが、「SPI」の種類・実施方法によって**出題項目が異なります**。実際の採用試験において指定される「SPI」の種類・実施方法は企業によって様々なため、満遍なく対策を行うことをお勧めします。

【能力検査の出題範】

言語分野
二語関係/熟語/語の用法/長文読解/文章の並べ替え
非言語分野
損益算/料金の割引/分割払い/代金の精算/速さ/表の読み取り/集計表/推論/組合せ/確率/物の流れと比率/条件と領域/グラフの領域/長文の読み取り(計算)/資料の読み取り/割合

性格検査 気負わず「ありのままの自分」を答える。

性格検査は、受検者の性格特性を**行動的側面**・**意欲的側面**・**情緒的側面**・**社会関係の側面**の4つの側面に分けて測定します。

質問項目は、設問例のように2つのタイプに分かれています。どちらのタイプでも、4段階の中から自分に近いと思うものを選んで回答していきます(**全項目必須回答**)。

また、「SPI」の性格検査では、**受検者が自分をよく見せようとする傾向をチェックする仕組みが導入**されています。偽った回答をしている場合、応答態度で「自分をよく見せようとする傾向がある」と判断される可能性があります。

【性格検査の尺度】

行動的側面
社会的内向性/内省性/身体活動性/持続性/慎重性
意欲的側面
達成意欲/活動意欲
情緒的側面
敏感性/自責性/気分性/独自性/自信性/高揚性
社会関係の側面
従順性/回避性/批判性/自己尊重性/懐疑思考性

【設問例】

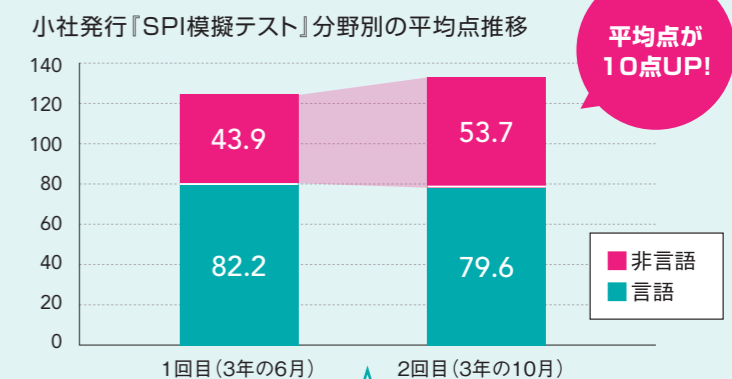
- 次の質問項目について、「あてはまらない(1)」「どちらかといえばあてはまらない(2)」「どちらかといえばあてはまる(3)」「あてはまる(4)」のいずれかで答えてください。
①一度決めたことはやり遂げるほうだ。① ② ③ ④ ②多くの人に会う集まりは楽しい。① ② ③ ④
- 次の質問項目のペアについて、ふだんの自分の考えや行動に近いものを、「Aに近い(A)」「どちらかといえばAに近い(A')」「どちらかといえばBに近い(B')」「Bに近い(B)」のいずれかで答えてください。
①Aよく考えてから行動する。 A A' B' B B思いついたらすぐ行動する。
②Aしぶとい A A' B' B Bさっぱりしている。

能力検査対策は早期からのスタートダッシュが肝心

「SPI」の能力検査は、高校1年生までの国語や数学の知識を使って解ける問題となっていますが、**1問あたりにかけられる時間が短い上、「SPI」特有の設問形式のため、対策をせずに高得点をとるのは難しい**と言えます。特に非言語分野は、数学自体を苦手としている学生も多く、得点の差が大きくなる傾向にあります。

しかし、非言語分野の多くは公式や解法さえ覚えれば解くことができる問題なので、「SPI」に**的を絞った対策を行うことで、得点を飛躍的に伸ばすことができます**。実際に就職活動が始まると、履歴書作成や面接の準備等で忙しくなるため、「SPI」対策は**就職活動が本格化する前の早期から始め、学力を定着させておくことがカギ**となります。

A大学(私立・文系学部の学生が多い)の場合



算数・数学を苦手とする学生が多いにもかかわらず、**的を絞った対策により、特に非言語分野で大幅な得点の伸びが確認**できました。